

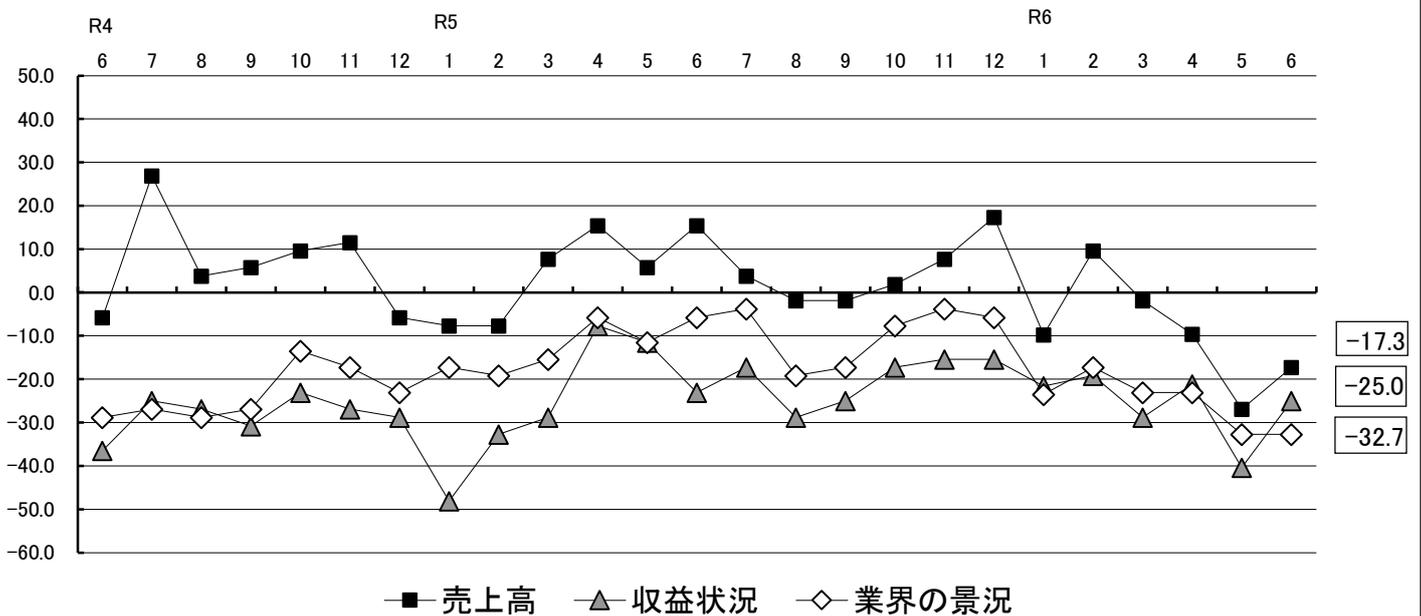
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和6年6月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 6月の前年同月比DI値は、前月と比べて、主要3指標では「売上高」「収益状況」で大幅な上昇がみられたが、「業界の景況」の変動はなかった。その他の指標では、「販売価格」「資金繰り」の2指標が上昇し、「取引条件」「設備操業度」「雇用人員」の3指標が低下した。
- 観光地等の人流増加に伴う活発な消費活動を受けて売上が回復した業種がある一方、ほとんどの業種では円安による原材料価格の高騰や人件費の上昇等が重荷となり、依然として景気回復は見られない状況にある。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-17.3	9.6	-13.3	-5.2
収益状況	-25.0	15.4	-26.4	-2.0
業界の景況	-32.7	0.0	-27.3	-2.6

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より9.6ポイント上昇し-17.3ポイントとなった。全国においては、前月より5.2ポイント低下し、-13.3ポイントとなった。

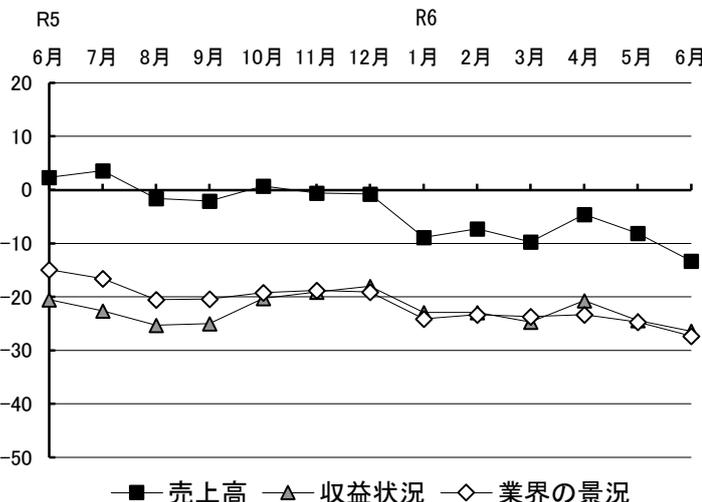
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より15.4ポイント上昇し-25.0ポイントとなった。全国においては、前月より2.0ポイント低下し、-26.4ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月と変動なく、-32.7ポイントであった。全国においては、前月より2.6ポイント低下し、-27.3ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

6月の前年同月比DI値は、図表2のとおり前月と比べ4指標が上昇し、3指標が低下となった。主要3指標では「売上高」は9.6ポイント上昇、「収益状況」は15.4ポイント上昇、「業界の景況」は0.0ポイントと変動はなかった。

製造業のうち「食料品」「繊維・同製品」においては、人流の回復により売上の増加が見受けられ、景況感が上がったものの、原材料・エネルギー価格の高騰が収益確保の足かせになっている。「鉄鋼・金属」では人材の確保に苦戦している影響を受け、設備の操業度が低下し景況感は悪化している。

非製造業では、ほぼすべての業種において依然として厳しい状況にある。材料費等の仕入れ価格の上昇や物価高の影響による消費者マインドの低下により、景況回復は感じられない。特に「運輸業」においては、人材不足や働き方改革に伴う時間外労働の減少により輸送力が不足しているため、収益の確保に苦戦している。

なお、製造業及び非製造業ともに前月より収益状況は改善されたが、原材料・エネルギー価格の高騰、人件費の上昇等に加え、人材の確保により利益圧迫の状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	-25.0	75.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0	0.0	25.0
繊維・同製品	75.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
木材・木製品	-75.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-75.0	0.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	25.0	0.0	75.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-100.0	-25.0	25.0	-50.0	-50.0	-25.0	-50.0	0.0	-75.0
一般機器	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	-25.0
製造業	0.0	0.0	40.0	-16.0	-12.0	-4.0	-12.0	-4.0	-28.0
卸売業	0.0	0.0	33.3	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	0.0
小売業	-57.1	-14.3	14.3	-42.9	-42.9	-28.6		-28.6	-42.9
サービス業	-16.7		50.0	-16.7	-16.7	0.0		0.0	-33.3
建設業	-40.0		20.0	-20.0	-60.0	-20.0		-40.0	-60.0
運輸業	-50.0		-25.0	25.0	-50.0	-25.0		25.0	-50.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-33.3	-10.0	18.5	-14.8	-37.0	-18.5		-14.8	-37.0
全体	-17.3	-2.9	28.8	-15.4	-25.0	-11.5	-12.0	-9.6	-32.7

図表2 【指標別DI値の推移】

	5年							6年						前月比
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
売上高	15.4	3.8	-1.9	-1.9	1.9	7.7	17.3	-9.8	9.6	-1.9	-9.6	-26.9	-17.3	9.6
在庫数量	-8.6	-11.4	-11.4	2.9	-17.1	-17.1	-14.3	-5.9	-8.6	-8.6	-14.3	-2.9	-2.9	0.0
販売価格	34.6	30.8	19.2	23.1	26.9	26.9	25.0	27.5	23.1	25.0	19.2	17.3	28.8	11.5
取引条件	-13.5	-15.4	-11.5	-11.5	-3.8	-3.8	-1.9	-5.9	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-15.4	-3.8
収益状況	-23.1	-17.3	-28.8	-25.0	-17.3	-15.4	-15.4	21.6	-19.2	-28.8	-21.2	-40.4	-25.0	15.4
資金繰り	-15.4	-11.5	-13.5	-11.5	-3.8	-1.9	-5.8	-7.8	-5.8	-7.7	-9.6	-15.4	-11.5	3.8
設備操業度	8.0	12.0	-20.0	0.0	12.0	-16.0	-8.0	-12.0	-4.0	-16.0	4.0	-8.0	-12.0	-4.0
雇用人員	-5.8	-7.7	-9.6	-5.8	0.0	0.0	-3.8	-3.9	-5.8	-11.5	0.0	-5.8	-9.6	-3.8
業界の景況	-5.8	-3.8	-19.2	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	-23.5	-17.3	-23.1	-23.1	-32.7	-32.7	0.0

特記事項

情報連絡員報告（令和6年6月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	売上の増加傾向にあるが、引き続き原材料・エネルギー等の値上げが続いており、内容的には厳しい状況が続いている。
	めん類製造業	昨年5月のコロナ明けから1年以上が過ぎて、人流が増え消費も活発化する季節となったが、暑さが厳しく県内の観光地等ではお土産等の売れ行きがダウンし消費が厳しいとの声あり。しかし、宇都宮市内オリオン通りには、若い人を中心に人手が多く消費も活発とのこと。また、コロナ中のゼロゼロ融資を受けて継続していた外食店等が返済時期を迎えて、返済に耐え切れず閉店するお店が出ているとの情報あり。色々なコストアップで消費者の感覚が値上げに慣れるまで、我々も値上げで売れ行きが落ちても頑張るしかないと思っている。
繊維工業	縫製業	昨年度同月に比べ売上は増加した。受注数量の確保が要因である。収益に関しては、昨年度より販売価格をUPできたため不変で落ち着いている。業界の景況が相変わらず悪く、オーダーがまだ入らず不安な状況が続いている。
	染色整理業	好転感が出てきた。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	大手のアパレル筋が今月から来春シーズンに向けての動きが始まった。様々な商材の問い合わせを受けているが、特定の(好調の)ブランドに限定されている印象を受ける。服飾資材に関してはファスナー等、安定して需要があるが、レースは使用企画を検討しているブランドは少ないようだ。
木材・木製品	一般製材業	少子高齢化の影響により戸建て住宅需要の不振が続いている。外材構造材もコスト高が続いており、引き続き先が見えない状況である。
	家具・建具製造業	円安に伴う材料価格の高騰・住宅着工の落ち込みによる売上減少・人手不足、賃上げ圧力等により、依然厳しい状況が続いている。
	木材・木製品製造業	住宅需要の減少が続いている。それにより一部木製品の値下りが見られる。一方、設備機器は値上り傾向。在庫増加は、今後、非住宅物件等の受注が見込まれるため。
	木材・木製品製造業	販売量、仕入量については流通部門・製造部門とも変わらずの見通し、また、販売価格・仕入価格についても変わらずの見通し。
印刷	印刷業	ペーパーレス化のもと、各社受注品目の拡大、提案力の強化、選択と集中による効率化、新事業など業態変革に取り組んでいる。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年に比べ減少した。建材関係は、昨年に比べ増加した。肥料関係は、昨年と同等となった。全体では、昨年に比べ減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	週末の来客数は増えているように感じる。陶器市後なので、売上は伸びてないようだ。他産地からの原材料の仕入れは、物価高に伴い、値段の高騰や輸送費の値上げが問題になっている。業界の生産も動き出しが見受けられているが、燃料のガスの値上げも問題になっている。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	鋼材仕入は6月も値上がり傾向にあって更なる価格転嫁が必要。猛暑続きの中、電力費の高騰…これからの夏対策が心配。金型は話題が無くて先が見えない。昇給や所得税減税があっても残業の減で上がった感が無い現実。コロナ以降、残業をしたくない社員が多い傾向。人材派遣社員もいない、嫌ならすぐ辞めてしまう。円安はどこまで進むのだろうか。
	金属製品製造業	冷蔵庫(日立)、エアコン(日立)、エコ給湯器(日立・三菱) 在庫調整。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、売上の減少、人材不足。
一般機器	一般機械器具製造業	全体の項目につき不変とする企業が多く、売上高減少及び収益状況が少々悪化の組合員企業も出ている。最近の関心事のカーボンニュートラルにつき組合員にアンケートを実施した。実現に向けての取り組みは「省エネ設備の導入」が一番多く、続いて「廃棄物の削減」、「エネルギー使用量の把握」となった。課題は、「どのレベルまで対応が必要か不明」が一番多く、続いて「資金調達・コスト増への対応」、「専門的な知識・ノウハウの不足」だった。公的な支援策については、「設備更新等への補助」、続いて「排出量の算定基準に関する情報提供」、「技術的な情報提供」の順となっている。部品供給を行う当組合員企業も脱炭素化への対応が遅かれ必須条件となる日が近づきつつあると感じている。
	一般機械器具製造業	会員企業の中で破産企業が1社出た。金型製造業の会社。製造業関係のところを調べてみるとかなり悪化していることがわかる。特に設備投資関係の落ち込みがひどいようだ。以上のことから新しい産業が生まれてきてないのが実情だろう。
卸売業	化粧品卸売業	特に業況に変化がなかった。

	各種商品卸売業	前月同様販売価格は上昇とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。他は不変とする企業が多かった。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。全体的に荷動きはあまり良くない。燃料価格は、高止まりが続いており、物価高騰と相まって、収益を圧迫している。輸入関連で円安の影響が大きく出ていて、コストが増加している。従業員の人員確保が難しい。(募集をかけても集まりにくい。)賃金アップについても対応していく中で、原資の確保など課題も多い。
小売業	食肉小売業	高値の和牛・輸入ビーフが売れない状況で、豚肉・鶏肉の需要が多い。豚肉は豚熱(豚コレラ)の影響で、仕入値の史上最高値が続き、利益が出なく厳しい営業。
	その他の小売業	夏季は、気温上昇に伴うガス需要の低下により、売上・収益ともに悪化は避けられない季節。そういう時期だからこそ、平素は手の回らない業務や業界団体の活動を通して、業界を盛り上げていく機会ともなると考えている。
	各種商品小売業	依然として景気回復は見られず、益々「低迷の6月期」だった。飲食店関係は、宇都宮の賑わい創造のために企画したオープンカフェ事業は商店街治安維持のため午後10時までになり多少の影響もあると聞いている。原材料の価格の上昇もあって利益15~20%減とのこと。特に地方では、一般小売業、特にアパレル関係が低迷している。小売価格の値上げ等により20%弱の減少。益々、厳しさを感じるどころ。
	各種商品小売業	依然として空床区画の後継テナントのリーシングは苦戦しているが、既存店ベースでは、客数・売上ともに前年をクリアすることができた。近隣大型モールのリニューアルの影響は一段落したと言えなくはないが、夏休みに入り、また、人の流れが変わると集客力が落ちてきてしまうのではないかと憂慮される。
	花・植木小売業	婚礼シーズン、未だに披露宴への参加者が戻らず売り上げ低迷。葬儀需要は閑散期のため売上伸びず。葬儀用の主力商品の輪菊の価格が廉価だったのが救い。小売は、花き業界あげて父の日には「黄色い花を贈ろう」と打ち出し、「母の日」のカーネーション同様売上アップを狙っているが思うような効果には至っていない。
サービス業	理容業	アウトサイダーの理容店に勤務していた従業員が新規に店舗開設をすることになり、該当支部の行事等への声掛けを行い、少しずつ組合加入のメリットを伝え新規加入していただくことが出来た。これからの組合員増員の足掛かりになればと思う。
	自動車整備業	販売価格が上昇している中で、売上高が前年比10%程減少。
	旅館・ホテル	6月も宿泊は比較的高稼働で推移したがコロナ前とは月ごとの傾向が違ってきているよう感じる。宴会は、新型コロナウイルス宿泊療養施設後の原状復帰作業中により100%ダウン。飲食店は、コロナ前と売り上げトレンドの傾向が変わってきているよう感じる。週末は戻ってきた感じがあるが、物価高による利用控えの影響が飲食店には出ているよう感じる。
	ビルメンテナンス業	マンションのリフォーム、ハウスクリーニング関係の業務受注が増えている。
	給食センター	定額減税の事務負担が増して、中小企業には手間だった。
建設業	総合工事業	内装業界においては6月の業績は低調。今年度においても同様な状態が続いている。また、材料費等の仕入れ価格も依然として上昇しており収益の圧迫傾向は続いている。
	職別工事業	昨年同月同様、内装業界においては6月の業績は低調。今年度においても同様な状態が続いている。また、材料費等の仕入れ価格も依然として上昇しており収益の圧迫傾向は続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	日用品・食品・飲料については改善しているが建設資材機械等の輸送量が悪い。一般貨物輸送量の減少により輸送効率が悪く、時間外労働時間の減少により輸送力が不足している。輸送原価の上昇分をカバーできないことと、ドライバー不足もあり労働力が不足している。運賃料金は改善するも輸送量は減となり営業収入は悪化している。
	貨物軽自動車運送業	ゴールデンウィーク明けから、受注量はスポット配送・チャーター配送の微減が続いており7月の先行きも不透明な状況にある。
	一般乗用旅客自動車運送業	全国的にみてタクシー業界は横ばい状態なのだが、直近3ヶ月間で見ると地域差が見受けられる。自分なりに分析すると、好調なのは千葉県が最も良く20%強のプラス、続いて沖縄・大阪・富山・石川あたり。我が栃木県も直近3ヶ月103~105%増。観光を目的としたプラス、それも千葉県の数字が表すように海外からの観光客増のプラスとみられる。逆に、東北・近畿の一部・九州各県の落ち込みが大きい。宇都宮市内ではタクシーのアプリ配車(TAXI GO)と思われる各社(各車)の動きを感じる。当組合にも導入に向かい話を進めている。今後ますます顕著になっていくと思われる。
その他の非製造業	大谷石採石業	特に変化はない。

